



先輩たちからのYELL

この創学舎ニュースが届くのは県公立高校入試日直前。そこで、最後の激励にと思い、先輩たちからのメッセージを掲載することにしました。少しでも受験生の皆さんの力になれば幸いです。

◇最後の模試で取った判定はDでした。しかし、結局一番は基礎だと思い、副教材や普段の小テストにしっかり取り組むようにしたら、ぐんと学力が伸びて、合格することができました。

県立小金高校合格 A・Sさん

〔我孫子教室〕

◇受験前、すごく不安なときに今まで問題を解いてきたノートを見ると、とても安心しました。今までやってきたことは無駄ではないと思いました。

県立柏高校合格 S・Kさん

〔我孫子教室〕

◇入試直前のV模擬まで志望校判定はずっとD判定でした。しかし、副教材をやり込んだおかげで入試では苦手の英語で九十点台を取ることができ、無事合格することができました。

県立小金高校合格 K・Hさん

〔江戸川台教室〕

◇今頑張っていることは必ず力になります。くじけそうになったときは喜ばせたい人を思い浮かべてください。自分を信じて、努力を信じて、最後まで走り抜けてください。

県立小金高校合格 A・Tさん

〔江戸川台教室〕

◇試験中「ああ、これは授業でやったなあ」「この問題、あの過去問と同じだなあ」といろんなことを思い出しました。改めて一つ一つの問題を丁寧に解くことが大切だと感じました。

県立東葛飾高校合格 S・Mさん

〔柏教室〕

◇受験前日に今までやってきた数学の副教材ノートを重ねてみたのだが、かなりの高さになり、それは当日の自信にもつながった。受験当日に、普段と同じように落ち着いて問題が解けたのは副教材あってこそではないかと思う。

県立東葛飾高校合格 S・Cさん

〔柏教室〕

◇最初の模試ではC判定だった高校も最後はS判定まで上げることができました。ここまで成績を伸ばすことができたのは約一年間創学舎に通い、先生方の支えがあったからだと思います。

県立柏高校合格 O・Aさん

〔新柏教室〕



◇国語の点数が思うように伸びなかったときに「しっかりと根拠を持って選択肢を削除する」と教えられたことを実践すると得点が伸びるようになりました。

県立柏高校合格 Y・Sさん

〔新柏教室〕

◇一緒に切磋琢磨して頑張れる仲間たちがいたからこそ最後まで諦めずに頑張れました。創学舎は

私の誇りです。

県立東葛飾高校合格 S・Kさん

〔新松戸教室〕

◇私は県公立入試前のプレテストで低い点数を取ってしまいました。ですが、それが良い刺激になり、その日から入試まで諦めず一生懸命勉強に取り組みました。

県立柏高校合格 T・Sくん

〔新松戸教室〕

◇周りからは合格は厳しいと言われてきました。しかし、家族や先生方の励まし、自分の思いと努力がそれをね返したのだと思います。努力は必ず報われる。初めてそう感じました。

県立柏高校合格 M・Aさん

〔パーソナル我孫子教室〕

◇受験が近づいて精神的にも身体的にも苦しい時期に励ましてくださったたり、受験本番でプレッシャーに負けないようにするコツを教えてくださいました。先生方のお陰で納得のいく結果を出すことができました。

県立柏高校合格 T・Fくん

〔パーソナル我孫子教室〕

◇模試の結果は最後まで第一志望はC判定でしたが、一人で悩むことなく受験勉強を続け合格できたのは先生方の支えがあったからこそだと思います。

県立東葛飾高校合格 K・Hさん

〔パーソナルおおたかの森教室〕

◇模試ではD判定やE判定ばかりでしたが、最後まで諦めず頑張つてよかったです。指導してくれた先生方、励まし続けてくれた友達、協力し続けた

てくれた親にとっても感謝しています。

県立柏高校合格 T・Yくん

〔パーソナルおおたかの森教室〕

◇入試直前には過去問に特化した指導をしてくださいました。点数を上げるために何をすべきかわからなかったのですが、授業ごとにアドバイスをしていただいたおかげで点数を伸ばすことができました。

県立小金高校合格 K・Hさん

〔パーソナル柏教室〕

◇苦手だった理科は先生のアドバイスどおりテキストを何回も解きました。一日三コマ理科があったときはとても大変でしたが、おかげで入試では五教科の中で一番高い点数が取れました。

県立柏高校合格 A・Kさん

〔パーソナル柏教室〕

「挑戦者たちへ」

「ここにいます。何度も失望と絶望を繰り返して、何度もあきらめそうになった。自分が信じられなくなり、何のために勉強しているのか、わからなくなることもあった。苦しかった。つらかった。逃げ出したかった。そのたびに自分を奮い立たせ、何度も立ち上がった。何度も壁にぶつかり、乗り越えるたびに強くなった。あの日の自分に伝えた。今、自分はここにいます。あきらめなかったからこそ、ここにいます。」

挑戦者たちよ……。未来を変えるには、闘い続けるしかない、全力で！

公立入試や大学入試を数日後に控える君は、今、どんな心境だろうか……。ここまで来るのに本当

に大変だったはずだ。冒頭の文はかつて受験生だった生徒が自分に宛てた言葉を掲載したものだ。皆、少なからずこのような心境なのかなって思う。最も純粹で張り詰めた糸のようで、最も繊細な精神状態であり、睡眠不足と疲弊した肉体でいる。誰もがそんな不安定な状態でこの受験直前を過ごしているはずだ。

私は大学受験の第一志望、そして、高校受験の第一志望とも受験会場に立つことすら、ままならなかった。高校受験ではインフルエンザにかかり、二日目は高校の入り口で強制帰宅した。高熱にもがきながら、そして受験できなかった悔しさに、泣いた。だから、コロナの感染や濃厚接触者になってしまい、受験を断念した方の気持ちは痛いほどわかるし、本当に辛く、無念極まりないはずだ。もしもそのような境遇にある者で、まだ受験する機会があるのであれば、是非とも、奮起してもらいたいと心から強く願う。少しでも勇気をもってもらうために、過去の受験生のエピソードを紹介したい。

昨年の春に大学を卒業して社会人になったHさんは公立前期入試(※以前は公立入試が前期・後期と二回あった。)の帰り、体調が悪くなり、病院で検査の結果、インフルエンザと診断された。その後、高熱を発して、一週間程、寝込んだ。その最中に合格発表があった。彼女の受験番号はなかった。一週間ぶりに教室に顔を見せた時にはげっそりと痩せていた。ほとんど食事が通らなかつたそうだ。普通だったなら、体調を気遣ってか、無理はせずに少しずつ勉強時間を増やすところだが、彼女は教室に顔を出したその日から猛スパートをかけた。

中学校の先生から「志望校を下げてくださいか」

という提案をされたそうだ。

だが、彼女はその提案を受け入れなかった。志望校を変えなかった。

志望校は変えなかったが、彼女の勉強への姿勢は変わった。食事の時間を始め、ほとんどの時間を勉強に費やした。いつもはおしゃれな彼女が服装も学校のジャージのまま。着替える時間もつたない。

【他の人が何点取ろうと私には関係ない。私は私と勝負しているの。】理社の『マイクリア』を二周した。それに加えて過去問十年分のできなかった問題を全部解き直した。あまり寝ることをしないうM先生までもが「あの鬼気迫る勢があれば、合格できるな。」M先生の予言は現実のものになった。後期入試で彼女は自分の受験番号を見つけたことができた。開示得点の結果、あと一問正解していなければ、掲示板に彼女の番号はなかった。彼女や先月号で掲載された彼もそうだが、【どうやら受験の神様は、合格したい人に微笑むのではなくて、合格を決めた人に微笑むようだ。】

後日談だが、彼女をそこまで動かし動機について触れたい。人が動く動機は究極的には二つある。一つは自分のため。もう一つは大切な人のため。どうやら彼女にとって、その志望校には、その両方の動機があったようだ。うむ。【悔るなれ、恋する乙女。】
彼女は、あきらめなかったからこそ、【そこにいる】わけだ。

(松尾)

集団知 18

●集団知(知っている、知らないに関わらず集



団として受け入れた価値観・判断)の続きである。一二月、一月と休載したので、一月号の続きとなる。

●一月号で日常語彙と学習語彙のことを述べた。偏差値が高い生徒や本をよく読んできた生徒は、日常会話の中で「論理」「習慣」「つながり」「流れ」「趣旨」「話の展開」など、普通に出てくる。また、日常会話では使わないが、科目の勉強をするときに必要な学習語彙も豊かである。読める漢字が多いのも勿論だが、加えて意味の分からない言葉があるとき、その意味を考へながら辞書や参考書で調べるという習慣も確立されている。こういう生徒たちに教えるのは楽で授業もテンポよく進む。また、分からないことは質問してくれる可能性が高いので、こちらも安心感がある。

●一方で、日常語彙・学習語彙の乏しい生徒も少なからずいて、この生徒達の指導は大変である。この時代、その生徒にに応じた、それなりの高校・大学はあるというものの、お預かりしている以上、本人の希望するところに行かせてあげたいと切に思うし、何より一定の知力、学習能力は身につけておいてもらいたい。就職試験のとき、何か資格を取りたいと思ったとき、きちんと対応できて、損をしないようにしてほしい。語彙が豊かで調べる習慣が身についている生徒を指導する一方で、語彙が乏しい生徒にはさらに別の対応が求められることになる。

●私は英語の他に日本史も教えているので、日本史の教科書を例にとって説明しよう。山川出版の「詳説日本史B」の一説である。「幕府は島原の乱後、キリスト教徒を根絶するため、とく

に信者の多い九州北部などで島原の乱以前から実施されていた絵踏(えぶみ)を強化し、また寺院が檀家(だんか)であることを証明する寺請(てらうけ)制度を設けて宗門改(しゅうもんあらた)めを実施し、仏教への転宗をはかるなど……。」語彙の乏しい生徒は「分からないところはありますか?」と質問すると「ありません。」と答える可能性が高い。今は、どの教科も親切に「かな」がふつてあるので、音としては読めるからである。音として読めれば気にならないという感覚が染みついているのである。一方、語彙が豊かな生徒は網かけの語句のいずれかで質問が出る可能性が高い。意味が分かることへのこだわりが強いからである。勿論、語彙の乏しい生徒が勉強しないわけではない。彼・彼女等なりにやっているのだから。但し、英単語を覚えるとき、意味が分からなくても平気、現代文の問題を読むときも、意味が分からなくても平気。当然、調べようともしない。この状態でやっていることを果たして勉強と呼べるのか?ただの作業ではないのか?

●今年の高三生も受験の真つ最中。一年間、この生徒達を何とかしようと思ってきたつもりだが、力及ばずの場合が少なかつたと思う。申し訳ない。「そもそも言語能力の弱い生徒は無理ですよ。」というのが高校生を教える立場にある人たちにほぼ共通の認識。しかも、そういう生徒に限ってスマホの時間は長い。さあ、これからどうしようか?

(以下次号)
(小林)

